



## 院長のご近所探訪

### ～東武博物館編～

東武スカイツリーライン、東向島駅の高架下にある「東武博物館」に行ってきました。館内には、実際に使用された蒸気・電気機関車の展示をはじめ、電車・バスの運転シミュレーターも体験できて、鉄道ファンや近隣の多くの人々を楽しませています。

※写真は101号電気機関車

## ロボット病院

医療、介護分野にロボットが入ることが増えている。手足を失った義手義足はもちろんのこと、麻痺肢の運動を補助するためのロボット、さらに介護作業をやりやすくするために装着して補助を得るスーツなどなど。今後もこの傾向は増えるであろう。人間がこれによって得るものはたくさんあるのであろうが、失うものは本当はないのか？

農業が人の手を離れ、機械化された。後継者がいないこともそれを加速した。今では全自動人工栽培の野菜も出回っている。工業も昔は人の手で行われ、日本人の平均賃金、生活レベルを向上させた時代があった。しかしロボットの作業スピード、正確性にはかなわない。さらに新興国が安い人件費で生産をする様になり、生産コストを下げるためには、賃金を支払う必要のないロボットを導入して世界と競争せざるを得なかった。そうして3次産業にもロボット化の波は押し寄せている。3次産業…？

私なりの定義では、豊かになるとは、富が増えること、消費できる資産が増えることである。つまり資源まで含めた社会全体で見ると、その社会の中だけで売買が成立しても資産は増えない。医療や介護はサービス業（3次産業）に分類され、富は増やさない。税金と一部負担を患者が払い、それが従業員の賃金に変わったとしても、資産の持ち主が変わっただけだからである。大卒の人気就職先は銀行や、航空会社、大手商社などの3次産業であ

る。その3次産業もロボット化される。人間にとって負担となる作業をロボットが肩代わりするなら1次、2次産業と変わらない。人間は、肉体労働はせずに頭脳労働だけをすればよい…？いや、頭脳労働こそコンピュータ・ネットが取って代わるであろう。冗談でなく人間の労働力を必要とする分野が減ってきている。富は個人には還元されなくなる。それより何より、人は消費するだけで、生産をしなくなる。



「人のためになる仕事、人に役に立つ様な仕事がしたい」というのは、若い頃に往々にして抱く未来像である。崇高な理想だが、農業も、工業も、サービス業もロボット化される。医療も例外ではない。人の役に立つ作業を人間がすることは、稀になる。何かおかしい。自らの手を汚して造り、育てることが人間には必要なのではないのか。昨今のPT、OT学校の社会人学生の多さ、東日本や熊本等、震災のボランティアの動向は、人に触れたがっている人間の多さを物語るのでは。ロボットが悪いわけではないけど、大量生産消費主義の社会が作ったのは、生産に携わる人間の立ち位置の喪失と、ものの価値観の崩壊であった。ロボット導入については真剣に、もっと慎重に考える必要性を私は感じている。

副院長 柳原幸治



## 日頃感じていること

作業療法科 科長  
**倉持 昇**



### チームワーク

今回は、私が日頃より感じていることを述べたいと思います。リハビリテーションチームは、医師、看護師、コメディカルスタッフと様々な専門職で構成されていますが、互いの専門性を尊重しながら、時には歩み寄り、日頃からコミュニケーションを欠かさないことが重要です。また、チームの中心に患者さん・ご家族がいることを忘れてはなりません。患者さん・ご家族のニーズ、主訴を伺いながら、情報を共有し、解決に導くことが大事です。問題に気が付いたスタッフは、気兼ねなく発信し、解決の糸口を見つけていくことが、患者さんのためになり、そのようなチームでありたいと思います。

当科でも同様です。日々の臨床で悩んでいるスタッフがいたら、先輩などが傾聴し不安を解消させる、自分の経験からアドバイスする、そんな職場の環境は仕事がしやすくなるでしょう。そんな職場作りを日頃から心がけています。

私の職場は、30名の組織ですが、とてもチームワークは良いと思います。若いスタッフには全員で目を配り育てていく雰囲気があります。また、過去5年間の離職率が3%という数字は働きやすい職場を物語っていると思います。今後も、スタッフ間のコミュニケーションを十分に保ちながら、気兼ねなく話し合える雰囲気を大事にし、チーム一丸となってより良いリハビリテーションが患者さんに提供できるよう尽力してまいります。

### 2025年真価が問われる作業療法

2025年まであと9年、5人に1人が後期高齢者になる時代を迎えます。その時、作業療法士はどのように医療+介護に貢献出来るのか真価が問われています。

作業療法は、作業（生活行為）を通して対象者の機能、活動・参加、QOLを改善するために働きかける職種です。初回面接では「出来るようになりたいこと・しなければならないことは何ですか?」と対象者とご家族に確認します。平成20年より日本作業療法士協会では厚労省とともに研究事業に取り組み「生活行為向上マネジメント」を開発し、平成25年度通所・訪問リハビリテーションの評価・介入手段として介護報酬に取り入れられました。その中では、対象者のニーズと作業療法士の評価結果を融合しチーム内で到達目標を互いに共有し有機的なアプローチが行えるようになりました。

当科では、回復期の患者さんの社会復帰を目指した機能回復・ADLの向上を図るリハビリテーションが中心です。新たな取り組みとして、患者さんが「その人らしい生活」を送れるよう、目標を立てて、自ら選べる作業・生活行為のプログラムメニューを作り、自宅に戻られても主体的な生活が出来るよう地域のボランティア（料理職人、朗読、等）の方々にもご協力いただいております。今後も、患者さんに本当に必要なかわりを常に追い求めていきます。



# ご近所ネットワーク

## 墨田区柔道整復師会の活動

墨田区柔道整復師会は（公社）東京都柔道整復師会の支部として活動しており、さらに47都道府県の柔道整復師会によって組織される（公社）日本柔道整復師会の構成員となっています。

柔道整復師というあまり馴染みがないと思われるが、「接骨院」「整骨院」を開業し、骨折・脱臼・捻挫・打撲・筋腱等の軟部組織損傷の治療を業としている国家資格者で、墨田区内に37名の会員が活動を行っています。

会員は、こうした接骨院における治療だけでなく、公益社団法人会員として不特定多数の多くの方々の利益に繋がる公益活動にも従事しています。

墨田区とは「災害時の医療救護活動」について協定を締結し、いつ起こるかも知れない大規模震災に備え、墨田区の医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携し、防災訓練、トリアージ研修会を行うなど、災害時の医療救護活動にすぐ対応できる体制づくりに協力させていただいています。

そして、墨田区長から上記4師会に対して災害医療救護者証を発行して戴き、交通規制、立ち入り規制にかかわらず、円滑に医療救護活動ができるよう取りはかかっていただいています。

また、今年で9年目を迎えました、毎年65歳以上の

一般高齢者を対象にした「元気生き生き体操教室」を区内の4施設会場で開催しており、転倒予防（劣った筋力、バランス能力を回復し、転倒しないからだづくり）運動の指導を実施しています。

また、墨田区介護認定審査会ならびに墨田区地域包括支援センター運営協議会に委員として参加協力しております。

その他、東京都柔道整復師会の他支部会員とも協働して国体、東京マラソン、柔道大会などをはじめとしたスポーツ大会における、救護活動（応急救護やテーピングによるケガの防止）を行っています。

平成28年度からは地域包括ケアシステムが導入されます。これは、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進していこうというものです。当会では、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるように、他職種とも連携して住みやすい環境整備に貢献してまいりたいと思います。

医師会の先生方をはじめ、医療関係団体との連携をさらに深めて墨田区民の健康の増進、ケガ予防に寄与して参りたいと存じます。



（公社）東京都柔道整復師会墨田支部 支部長  
古畑元資様

# 心理も参加しています。

## 高次脳機能障害 特別訓練プログラム (高次脳集団訓練)



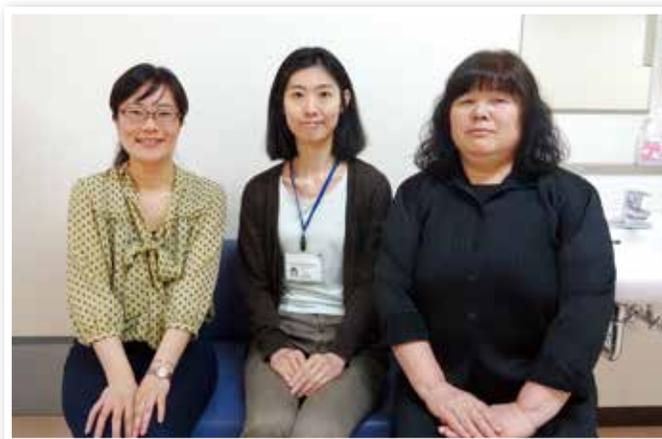
心理主査 南雲 祐美

先日、高次脳集団訓練に見学者（墨東病院、Dr.、OT、ST、MSW）がありました。このプログラムは平成21年から高次脳機能障害連携委員会によって開始され、毎年継続されてきたものです。訓練内容は全職種（Dr.、Nrs、PT、OT、ST、MSW、心理）の各部門が担当する認知プログラムと、認知行動療法をベースにした社会生活力訓練（シンフォ）です。当日前半の「脳トレ」プログラムを心理が担当しましたのでご紹介します。心理では通常の訓練は個別で行っています。小人数の部署ですので対応患者数が多くなると、入院期間は評価に時間がとられてしまう事も多く、外来で訓練を継続することもあります。患者さんにとって集団訓練は社会復帰、社会参加する際のきっかけの一つとなっています。当日の参加者は患者さん6名、見学者5名、スタッフ合わせて19名でした。脳トレの内容は「間違い探しゲーム」を主としたプログラムです。当日は1.「今日のスケジュールの確認」2.「現在の気分の自己評価」（快、不快それぞれ5つの気分を表すシールの中から1つを選ぶ、自分の感情状態を客観視することを経験する）3.「自己紹介」（ネームチェーン）「名前と出身地」を紹介する、次の人は前の人の名前と出身地を紹介し

てから自己紹介する。最後の人は全員の人を紹介することになる。ここでメモすることの必要性を認識していただく。4.「間違い探しゲーム」部屋にある物、人の変化を見つけて答えてもらう課題です。5分間部屋の様子を観察、メモを取ってよい。その後退室してもらい、残りのスタッフで模様替えを行う。再入室してもらい、気づいた違いを白紙に書き出してもらう。分かった人から順番に一人1つずつ回答してもらう。ご自身や仲間の注意状態の認識を進めていただく。5.「今日のプログラムの振り返り」行ったこととその感想の記入と現在の気分の自己評価。以上が当日の内容でした。

患者さん達の感想は「面白かった、楽しかった、そんなんにも変わっていたとは驚いた、分からなかった、易しかった」です。終わった後の気分は「満足だ、あ、そうか・気づき、しょんぼり、さびしい」といった報告でした。患者さん達の快の気分に働きかけなおかつ注意や記憶の認知面への刺激にもなったようです。

後半は社会生活力訓練・シンフォで主役になられた患者さんへ皆からいろいろなアドバイスが出され今後の生活の参考になったようでした。



左から須藤、築山、南雲



## 地域リハビリテーションセミナーの開催報告

当院は、東京都より地域リハビリテーション推進広域派遣アドバイザー設置事業を受託しております。

本事業の活動として、墨田区では地域リハビリテーション活動支援事業とタイアップし、区内の地域リハビリに携わる方を対象としたセミナーを開催しております。

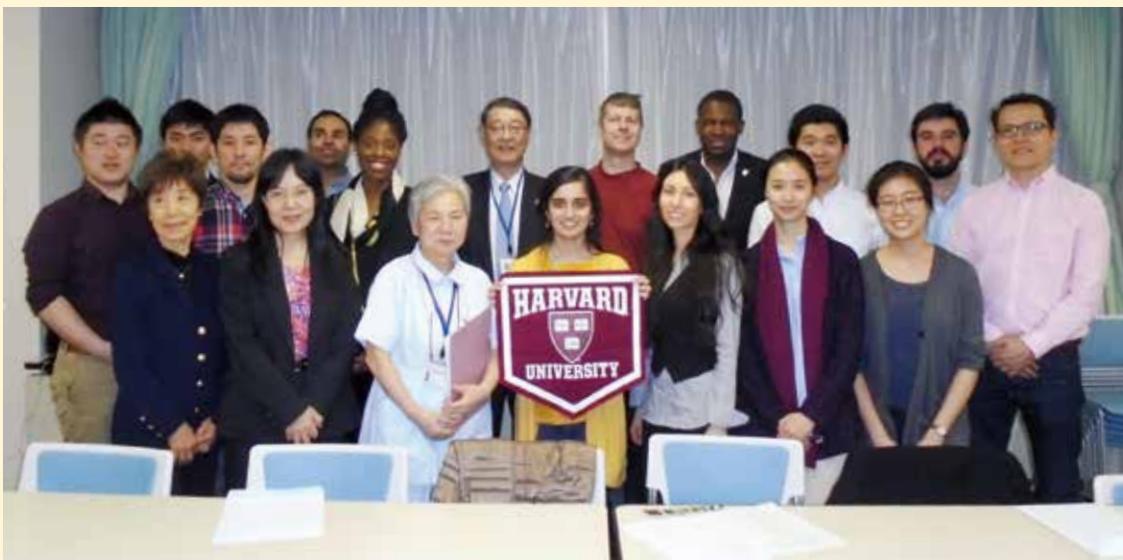
このセミナーでは、リハビリの基礎知識と生活視点を持ち、行政を含む介護保険関連スタッフと連携を積極的に図れる人材を育成することを目的としたセミナーです。

今後は、江東区や江戸川区を対象とした支援も実施予定です。



## 海外からのお客様

来院日	訪問団体	国名	人数
平成27年10月7日	Ajou大学	韓国	10名
平成28年1月4日	甘肅省身体障害者連合会	中国	5名
平成28年1月13日	韓国慶雲大学校	韓国	35名
平成28年3月17日	ハーバード大学関係者	アメリカ	19名
平成28年4月8日	浙江省リハビリ医学会	中国	15名
平成28年4月14日	ROI病院	韓国	10名



ハーバード大学の皆様と記念撮影（平成28年3月17日）



# ～看護就職説明会(病院見学会)～

5月5日、平成29年度新規採用看護師向けに病院見学会を開催しました。

当院では人材確保のため、学校で行われる就職説明会や企業による就職フェア等に出席しています。

各説明会では、病院の概要説明、リハビリテーション看護の楽しさを話し、見学会当日は病棟、訓練室でリハビリを

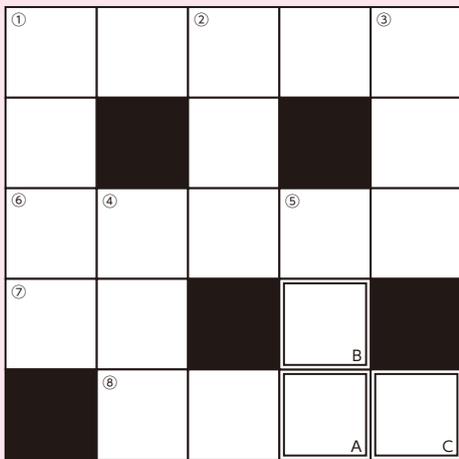


頑張っている患者さんの様子や患者さんに対応しているスタッフの姿など、病院の雰囲気を肌で感じて頂きました。なお、就職希望者の病院見学会は随時受付けておりますので、興味のある方はご一報をお待ちしております。

TEL:03-3616-8600  
担当 看護：蟻田 人事：石井

## ほっとりハ クロスワード パズル Vol.3

ヒントをもとにマス目を埋め、二重マスの文字をつなげてください  
◎正解をはがきでお送りいただいた方の中から抽選で10名様にQUOカードを差し上げます



### タテのかぎ

- ①ココ椰子の実
- ②一世風靡したアイルランドの女性歌手
- ③最近の日本家屋には少なくなりました
- ④合格点に達しないとこれを受けることに
- ⑤これが冷めない距離が理想の嫁姑

### ヨコのかぎ

- ①スペイン語で「ごきげんいかが」
- ②海へ山へ海外へ、予定は立てましたか?
- ③最後に安住するところを〇〇の棲家といいます
- ④〇〇〇〇イズベストとかライフとかいいます

答え:



### 前号の答え



多数のご応募ありがとうございました

【応募方法】 はがきに①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名をお書きのうえ、次の応募先へお送りください。なお、当選者は発送をもって代えさせていただきます。

【締切】 平成28年8月3日(水) 当日消印有効  
※正解は次号に掲載いたします

【応募先】 〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1  
東京都リハビリテーション病院 ほっとりハ編集係宛



平成28年7月1日(金) 発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会

〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1  
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8699  
http://www.tokyo-reha.jp



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



広報委員として3年間、紙面構成の工夫や写真撮影として様々な場所へ伺い、楽しみながら広報紙を作成させていただきました。ご協力くださった皆様に心からお礼申し上げます。今後も多くの方に愛読され、ますます発展するよう願っております。

広報委員 林